

総合的な思春期・若年成人(AYA)世代の がん対策のあり方に関する研究

分担研究: AYA世代がん患者の妊孕性温存の教育・
啓発に関する研究

滋賀県の現状と
がん・生殖医療の情報ツール、助成金ニーズ効果

滋賀医科大学 産科学婦人科学講座
木村文則

滋賀県のがん生殖医療の現状

- 2013年1月より滋賀医科大学医学部附属病院で
ヒト卵巣凍結・未受精卵凍結を開始
- 2015年1月
ヒト卵巣凍結保存実施のための
麻酔科・手術部と協力協定
- 2015年6月
「がんや自己免疫疾患患者のための妊孕性温存外来
(通称:がん妊孕外来)」月曜から金曜日9:00ー12:00
- 2015年7月7日に滋賀がん生殖医療ネットワークを設立
(情報提供型ネットワーク)

滋賀医科大学医学部附属病院 がんおよび自己免疫疾患に対する生殖細胞 温存医療実施数の推移

期間	2013 上半期	下半期	2014 上半期	下半期	2015 上半期	下半期	2016 上半期	下半期
精子凍結	—	—	1	2	1	2	6	5
卵子凍結	—	—	—	1	0	3	4	5
卵巣凍結	2	1	1	2	6	5	6	3

↑ ↑
 OF-Net Shiga始動
キックオフミーティング

2015年4月から2016年12月までに 行ってきた研究内容

- 2015年7月7日に滋賀がん生殖医療ネットワークを設立
(情報提供型ネットワーク)

目的: ①滋賀県内の患者、医療従事者への啓発
②患者、がん治療者、生殖医療者のネットワーク化
③がん生殖医療の普及

実施内容:

- ①教育・啓発用の資料作成
- ②効率的な教育・啓発方法の考案
- ③患者紹介体制の確立
- ④がん妊孕性温存治療普及のための助成金の効果

2015年4月から2016年12月までに 行った研究内容

- 2015年7月7日に滋賀がん生殖医療ネットワークを設立
(情報提供型ネットワーク)

目的: ①滋賀県内の患者、医療従事者への啓発
②患者、がん治療者、生殖医療者のネットワーク化
③がん生殖医療の普及

実施内容:

- ①教育・啓発用の資料作成
- ②効率的な教育・啓発方法の考案
- ③患者紹介体制の確立
- ④がん妊孕性温存治療普及のための助成金の効果

がん生殖医療の情報ツール(教育・啓発用の資料)作成
およびその効果

教育・啓発用の資料作成

滋賀がん生殖医療ネットワークが作成した資料



滋賀医科大学医学部 産科学婦人科学講座



信頼と満足を追求する
全人的医療

[ホーム](#) [教室紹介](#) [受診希望の方](#) [医療関係者の方](#) [学生の方](#) [研修医の方](#) [お問い合わせ・リンク](#)



がん・生殖医療
ネットワーク
OF-Net Shiga

滋賀 がん・生殖医療ネットワーク (OF-Net Shiga)

[ホーム](#) » 滋賀 がん・生殖医療ネットワーク (OF-Net Shiga)

設立の背景と目的



OncoFertility
Network
shiga

みんなのハートで未来の扉を開こう

〒520-2192
大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学産科学婦人科学講座
TEL 077-548-2267(直通)

設立の背景と目的

ネットワークの概要

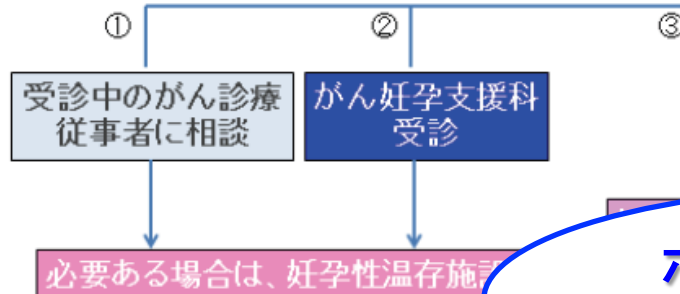
ネットワークの特徴

ネットワークのご利用方法

滋賀がん生殖医療ネットワークが作成した資料

Step 1
資料を呼びかけ施設ホームページからダウンロード

Step 2
ご自身で不妊リスク評価



ホームページより
ダウンロード可

◆共有する資料

- ①説明用DVD ②問診票 ③患者用リーフレット
- ④医療者用リスク分類表
- ⑤医療者用妊孕性温存のためのアルゴリズム
- ⑥がん妊孕支援科一覧 ⑦妊孕性温存施設および診療内容一覧

けではありません。患者さんの病状等により妊孕性温存が適さない場合もあることはお含み下さい。

なお、がん・生殖医療および滋賀がん・生殖医療ネットワークのご理解を深めていただくために「OF-NETがん・生殖医療ネットワーク説明用DVD」の音声入り画像をご用意しました。ダウンロードしてご視聴ください。（ご視聴いただいた方は、ofnshiga@belle.shiga-med.ac.jp までご意見をいただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます）

患者さん用資料ダウンロードはこちらからどうぞ

- [がん治療と妊孕性について](#)
- [登録施設一覧表](#)
- [OF-Net がん・生殖医療ネットワーク説明用画像](#)

がん診療従事者がネットワークを利用される場合

がん診療従事者の啓発

①個別対応	<u>がん治療医療機関からの相談に対応（案件ごと随時）</u>
対象者	がん治療機能を有する医療機関の従事者
実施時期	通年
相談窓口	滋賀医大産科婦人科学講座
②研修会	<u>がん治療医療機関ごとに実施（原則、必ず1回以上）</u>
対象者	がん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院、地域がん臨床病院計13か所、その他の医療機関従事者
内容	がん患者妊孕性温存処置の解説（同助成事業含む） 県内の妊孕性温存療法施行施設の情報提供
実施方法	滋賀医大ががん治療医療機関の院内研修会等へ講師を派遣
役割分担	<u>がん治療医療機関：研修会の場の設定、参加者確保</u> 滋賀医大：講師派遣、資料作成・印刷（細部は双方で調整）
実施時期	平成28年4月～9月にがん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院、地域がん診療病院計13か所にて各1回実施
費用	講師報償費、旅費は不要です
その他	実施後、参加者アンケートへの協力、参加人数のご報告をお願いいたします。

研修会を施行した施設

赤色：がん診療連携拠点病院

高島市民病院
産婦人科

滋賀県立成人病センター
婦人科・泌尿器科

草津総合病院
泌尿器科・産婦人科

大津赤十字病院
泌尿器科・産婦人科

大津市民病院
泌尿器科・産婦人科

滋賀医科大学附属病院
泌尿器科・女性診療科

(2016年4月1日現在)

長浜赤十字病院
産婦人科

市立長浜病院
放射線科・泌尿器科・
産婦人科

彦根市立病院
泌尿器科・産婦人科

近江八幡市立総合医療センター
泌尿器科・産婦人科

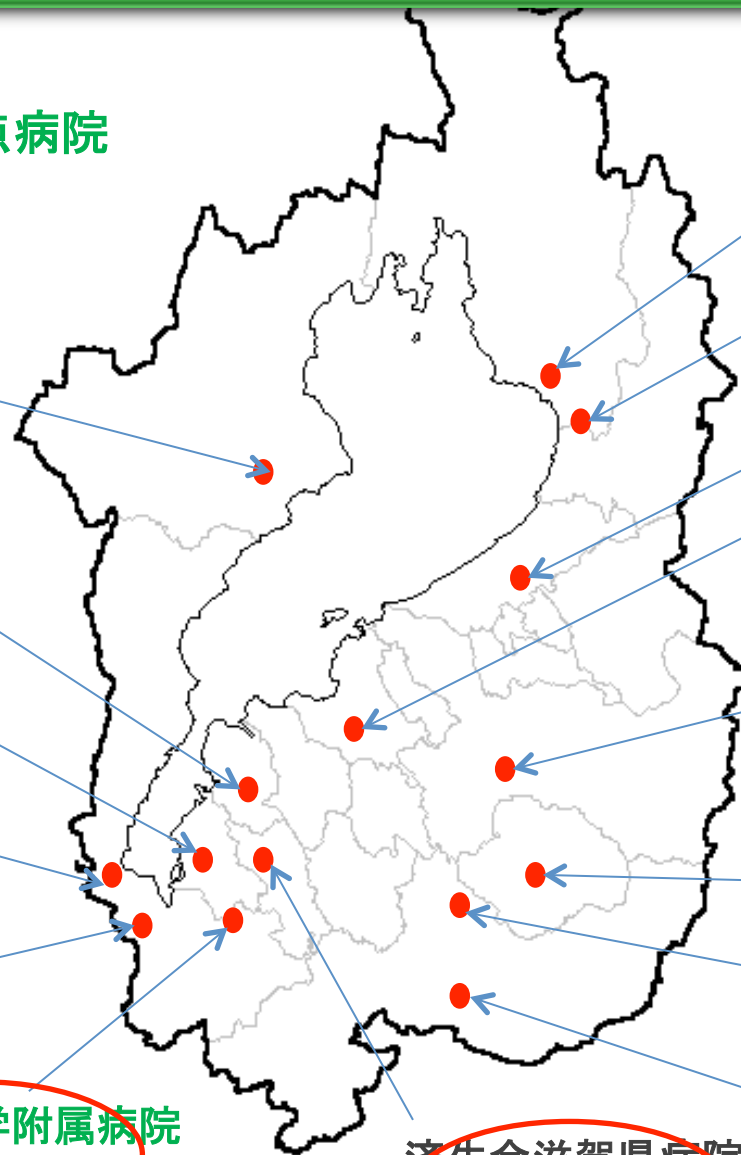
東近江医療センター
泌尿器科・産婦人科

日野記念病院
泌尿器科・乳腺外科

甲賀病院
泌尿器科・産婦人科

済生会滋賀県病院
泌尿器科・産婦人科

甲南病院
放射線科・外科



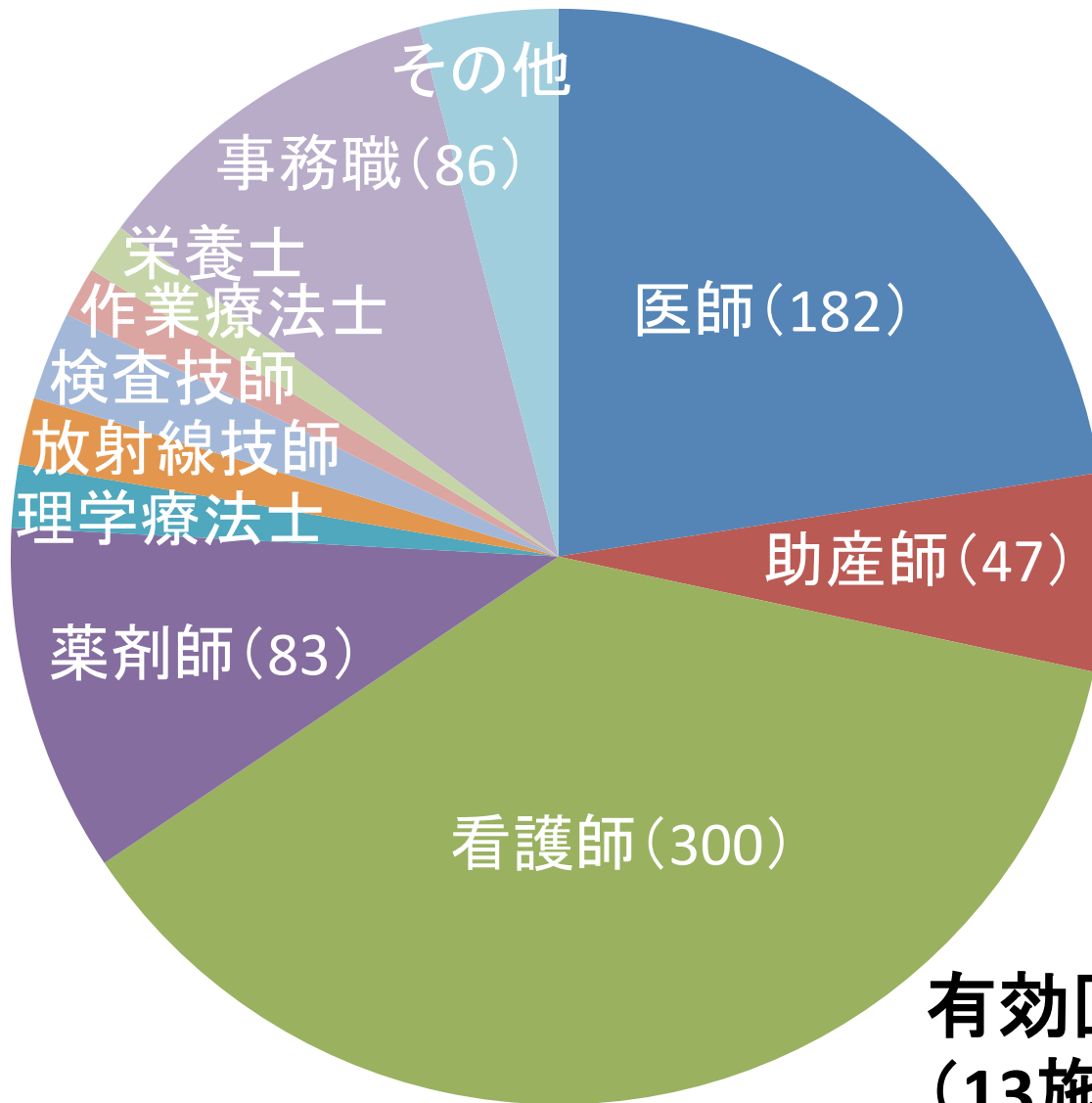
研修会施行中の情報収集内容

➤ 患者説明用の資料として医療者は何を望むか

がん患者さんに妊孕性温存の説明を自分の施設で行う場合に、
あると最も便利だと思うものを下記の中から1つ選んでください。

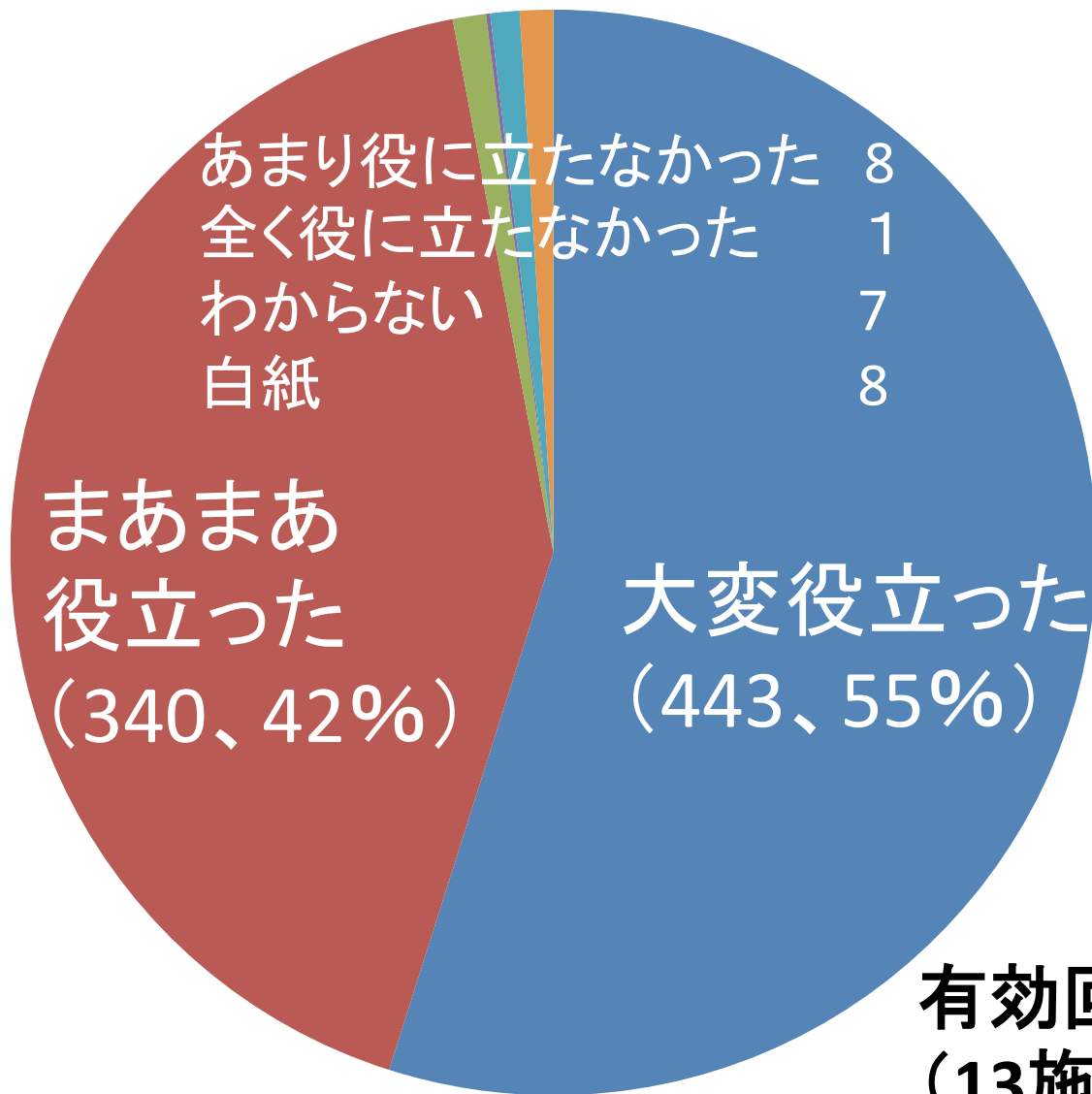
- ①説明用映像（DVDなど）
- ②説明用リーフレット（医療者が患者説明用に使用する印刷物など）
- ③患者用説明ハンドブック
（患者さん自身が読む説明用の小冊子など）
- ④その他（ ）

参加者の割合



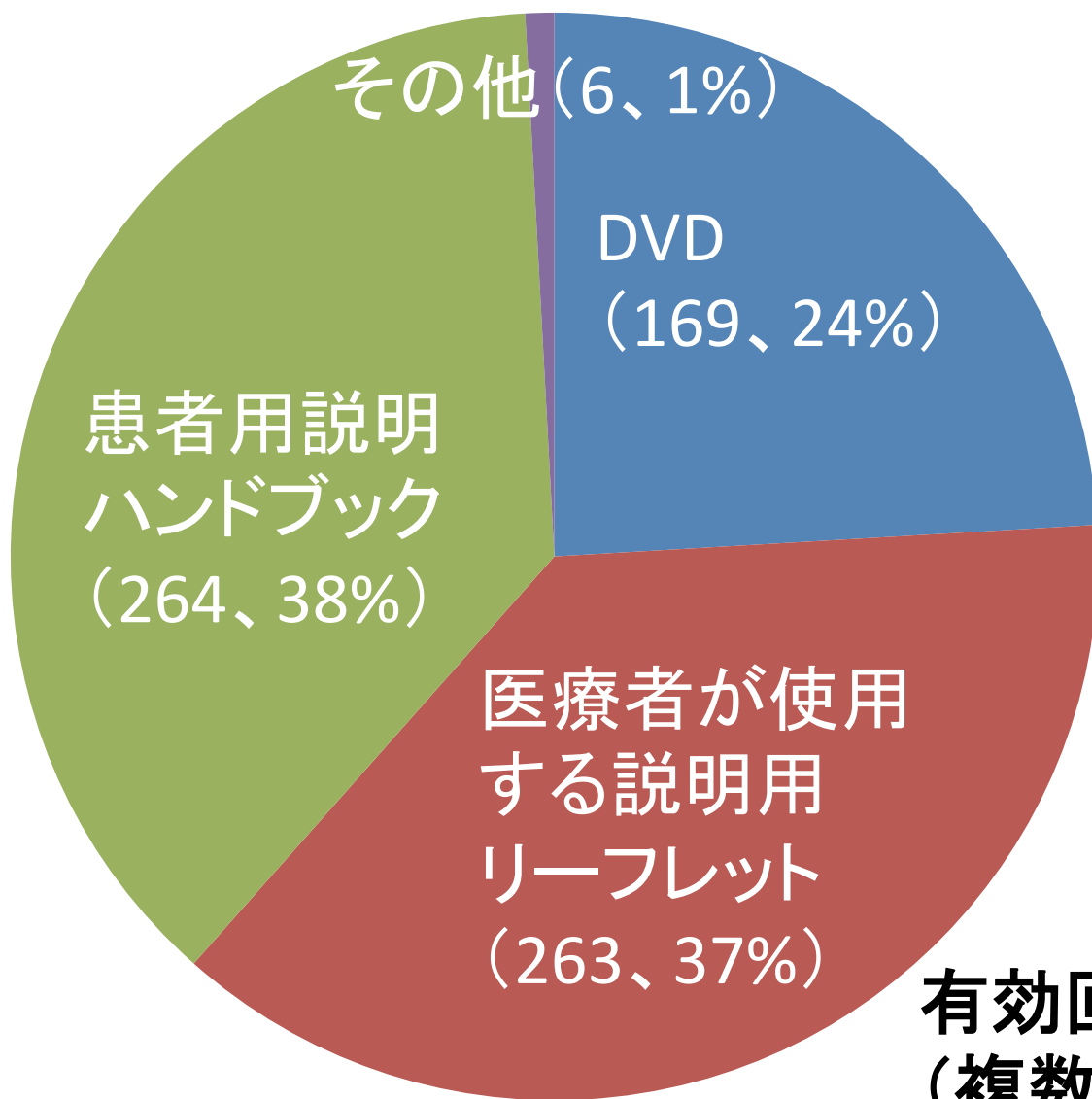
有効回答 807人
(13施設でアンケート)

内容の理解



有効回答 807人
(13施設でアンケート)

患者説明用の資料として医療者は何を望むか



有効回答 702
(複数回答・無効除く)

今後のタイムスケジュール当初予定

2016年度

10月

1月

2017年度

4月

10月

どの資料を
作成するか
選定

医療者教育
用は必要？

滋賀の
ネットワーク既存の
資料の
改編
あるいは
新規
作成

生殖
研究
小班
で
検証

複数の地方
ネットワーク
で使用いた
だく

作成資料
への意見
・医療者
・患者

最終資料の
作成

今後のタイムスケジュール予定

2016年度

12月

3月

2017年度

4月

10月

どの資料を
作成するか
選定

医療者教育用は
必要？

滋賀の
ネットワーク既存の
資料の
改編
あるいは
新規
作成

生殖
研究
小班
で
検証

複数の地方
ネットワーク
で使用いた
だく

作成資料
への意見
・医療者
・患者

最終資料の
作成

助成金ニーズとその効果

助成金の手続方法

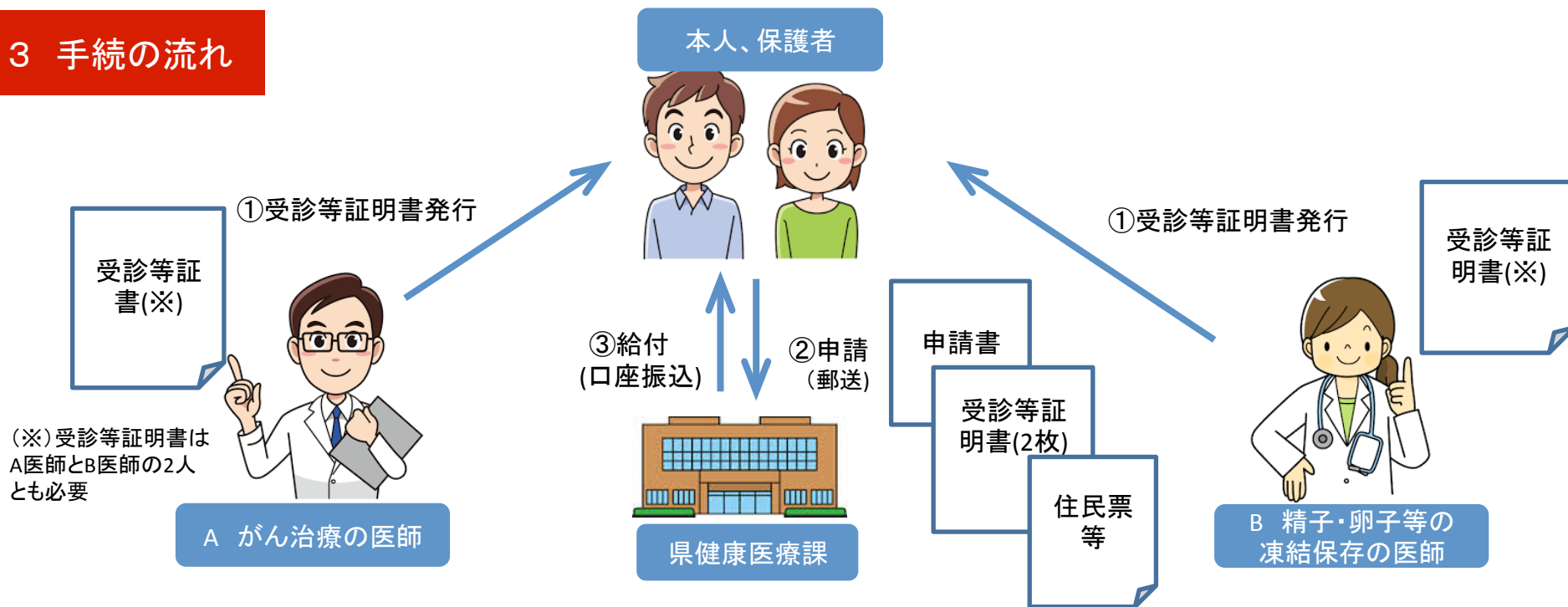
1 助成内容

精子、卵子、受精卵、卵巢組織等の採取、凍結保存等にかかる保険適用外経費（生涯で1回）
上限：男性2万円、女性10万円

2 対象者

がん治療により子どもができなくなるおそれがあり、
助成内容の処置の時点で滋賀県内にお住まいの43歳未満の人（申請数20人程度を想定）

3 手続の流れ



4 申請先

健康医療福祉部健康医療課 がん・疾病対策室へ郵送
〒520-8577大津市京町4-1-1 電話 077-528-3616 FAX 077-528-4857

滋賀県から助成を受けた患者

2016年4月以降

助成金補助を申請したのは、

男性 0

女性 6人中4人(卵巣凍結2、卵子凍結2)

補助があったから行ったかどうかは不明

医療者サイドから見た がん生殖医療への助成の必要性

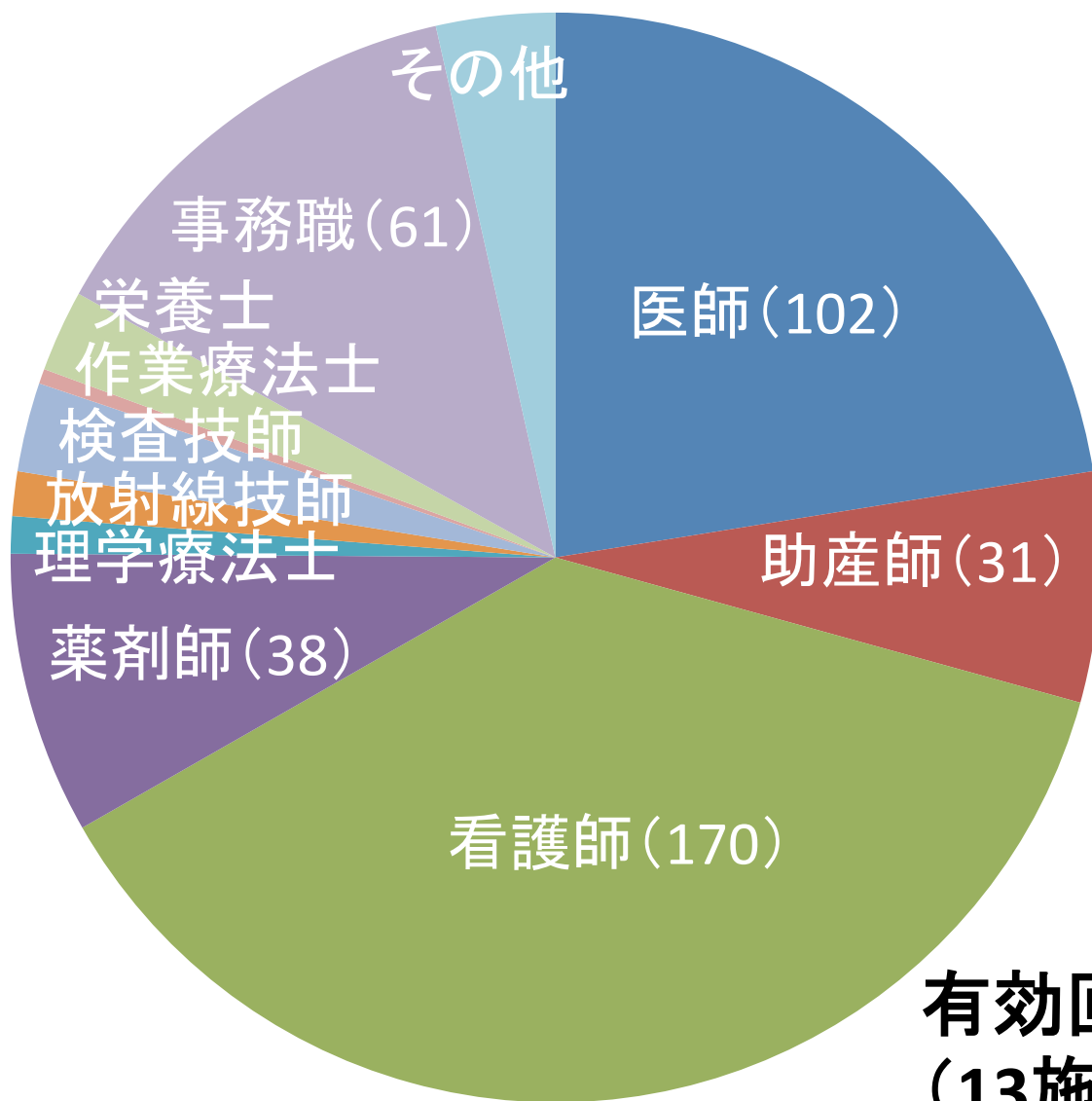
研修会施行中の情報収集内容

➤ がん生殖医療に対する公的補助に関して

現在、がん患者さんが妊孕性温存療法を受けられる際にすべて自費診療で治療を受けています。これらに対しても分娩や体外受精などと同じように公的に医療補助(補助金)を行うべきだと思いますか。

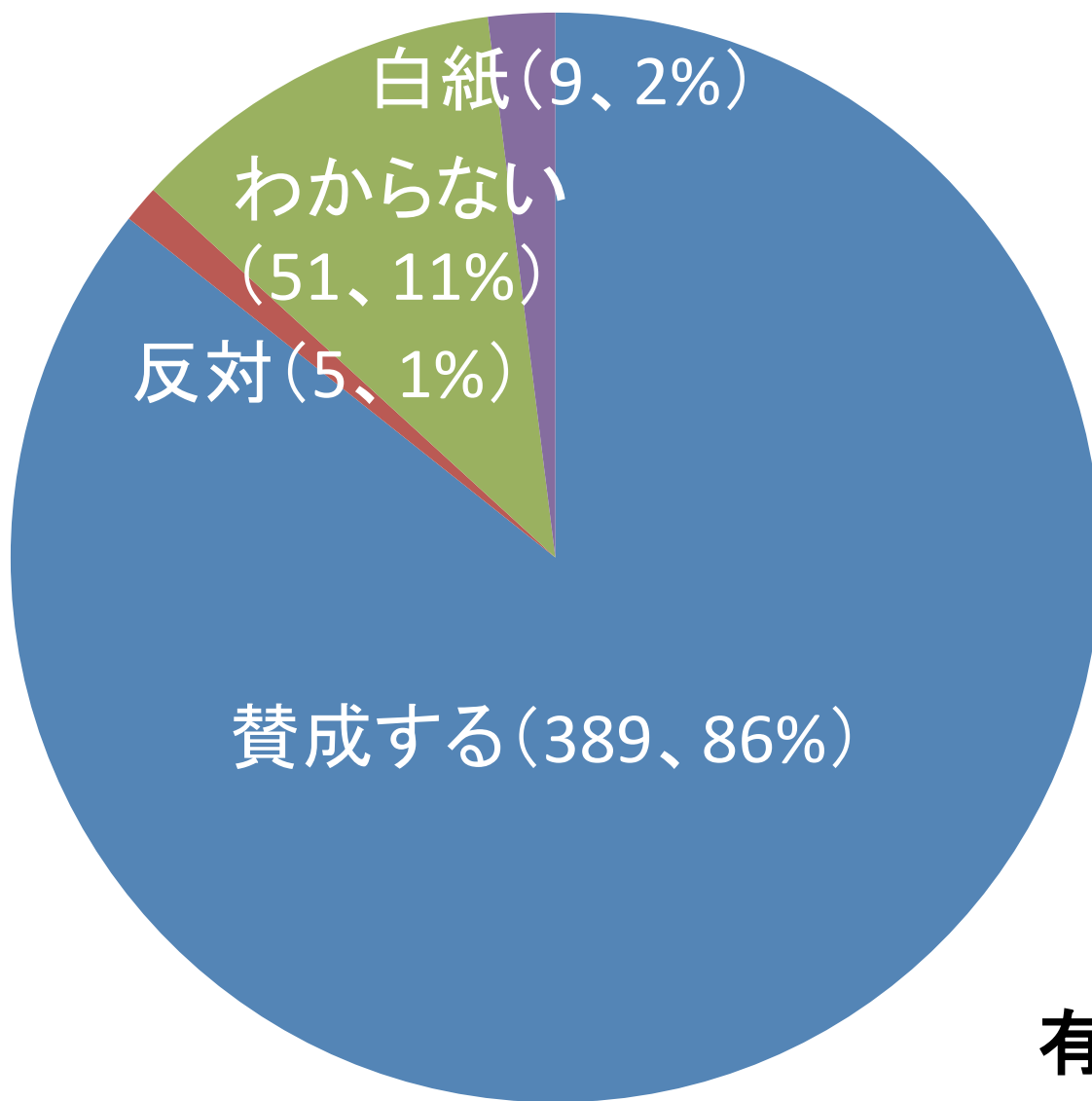
①はい ②いいえ ③わからない 4その他

参加者の割合



有効回答 454人
(13施設でアンケート)

公的に医療補助(補助金)を行うべきだと思いますか



有効回答 454

研修会施行中の情報収集内容

➤ がん生殖医療に対する公的補助に関して
凍結保存実施時の公的補助につきどれくらいの補助
内容が適切だと思いますか。

男性の場合

<補助の割合>

- | | |
|------------|--------|
| ①精子凍結時の費用の | 3割を補助 |
| ②精子凍結時の費用の | 5割を補助 |
| ③精子凍結時の費用の | 7割を補助 |
| ④精子凍結時の費用の | 10割を補助 |

<補助額の上限を定めるかどうか と 上限額>

- ①上限2万円
- ②上限5万円
- ③上限10万円
- ④上限を設定しない

女性の場合

<補助の割合>

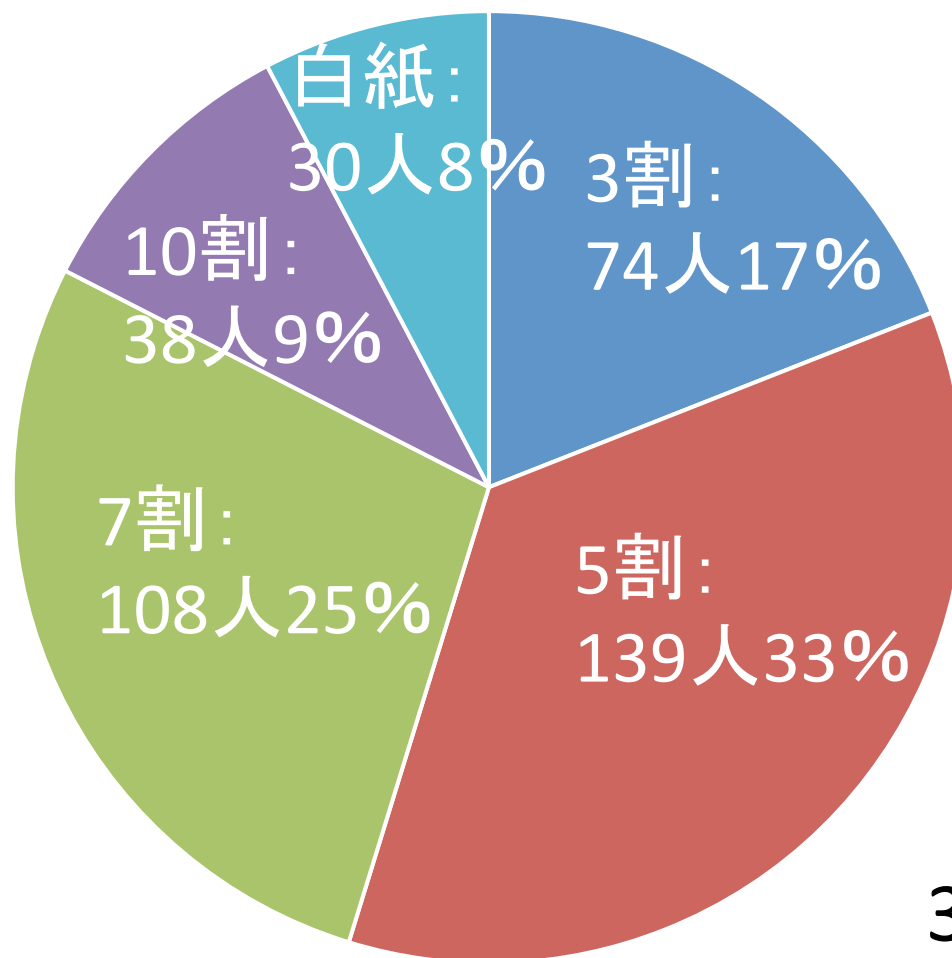
- | | |
|---------|--------|
| ①総治療費用の | 3割を補助 |
| ②総治療費用の | 5割を補助 |
| ③総治療費用の | 7割を補助 |
| ④総治療費用の | 10割を補助 |

<補助額の上限を定めるかどうか と 上限額>

- ①上限10万円
- ②上限30-40万円
- ③上限50-60万円
- ④上限を設定しない

研修会施行後の医療費補助への意見

精子凍結への補助 公的補助の割合

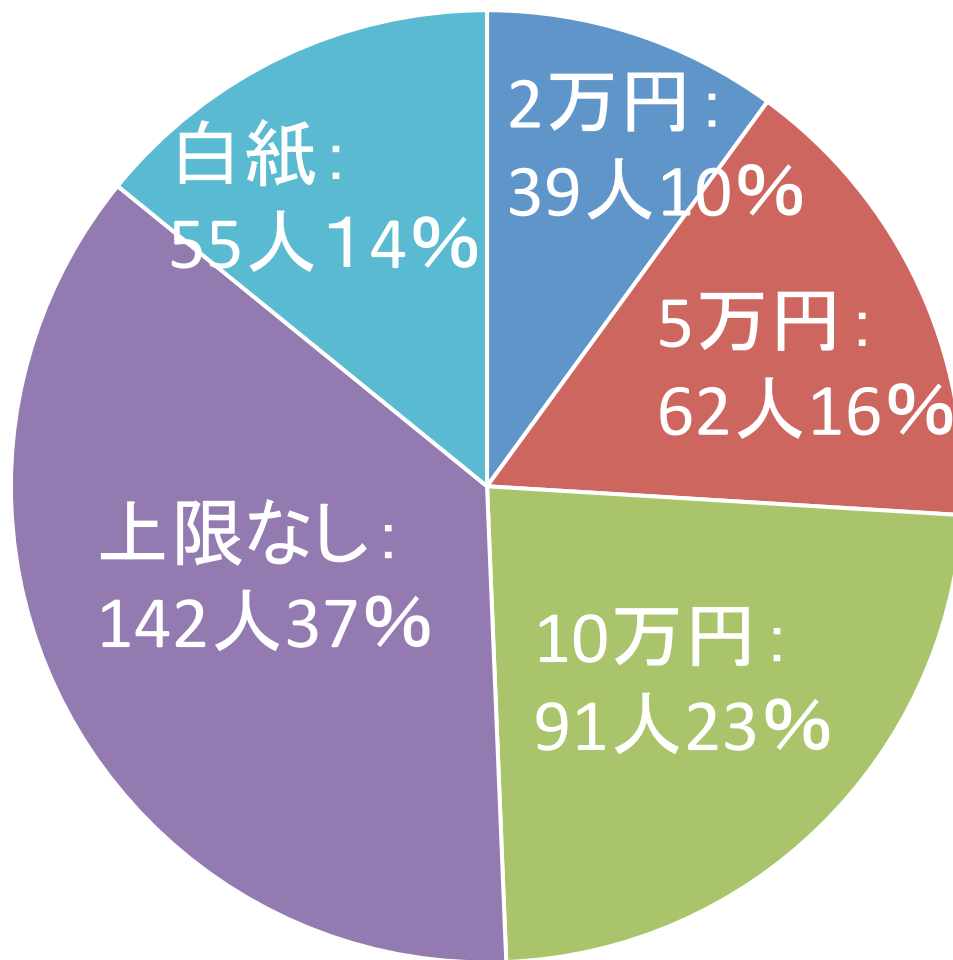


389名

研修会施行後の医療費補助への意見

精子凍結への補助

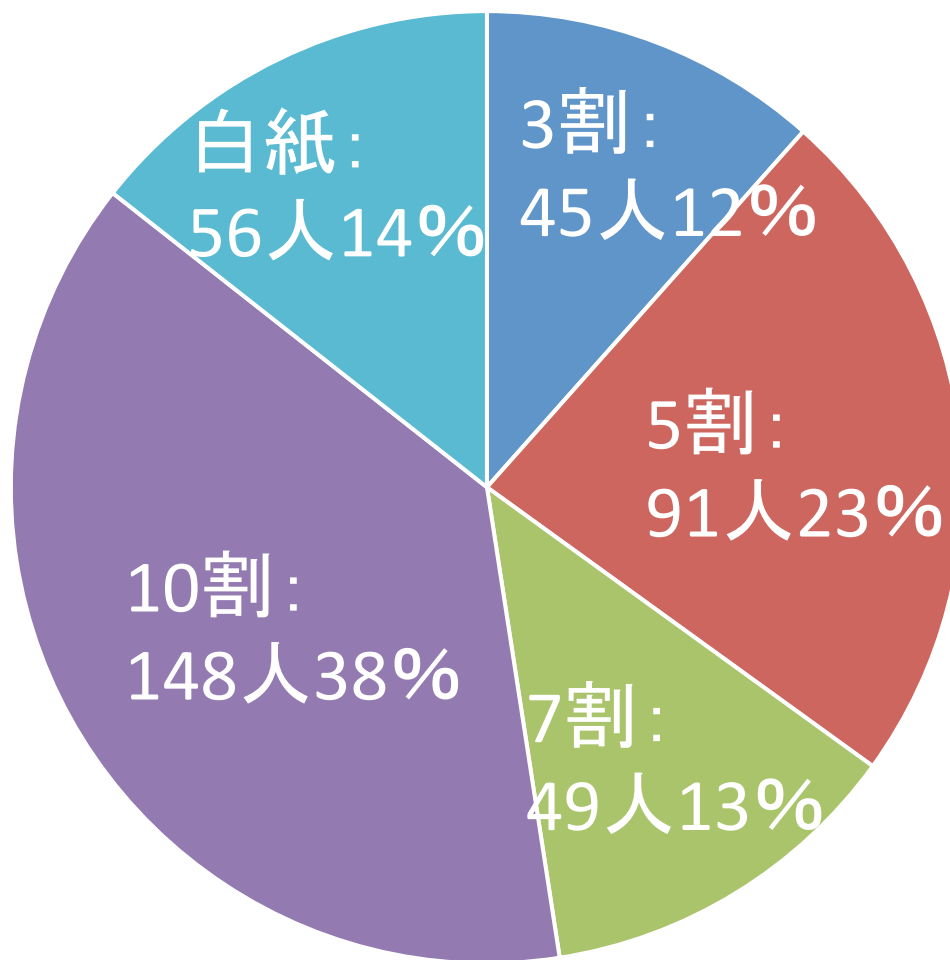
公的補助の金額の上限



389名

研修会施行後の医療費補助への意見

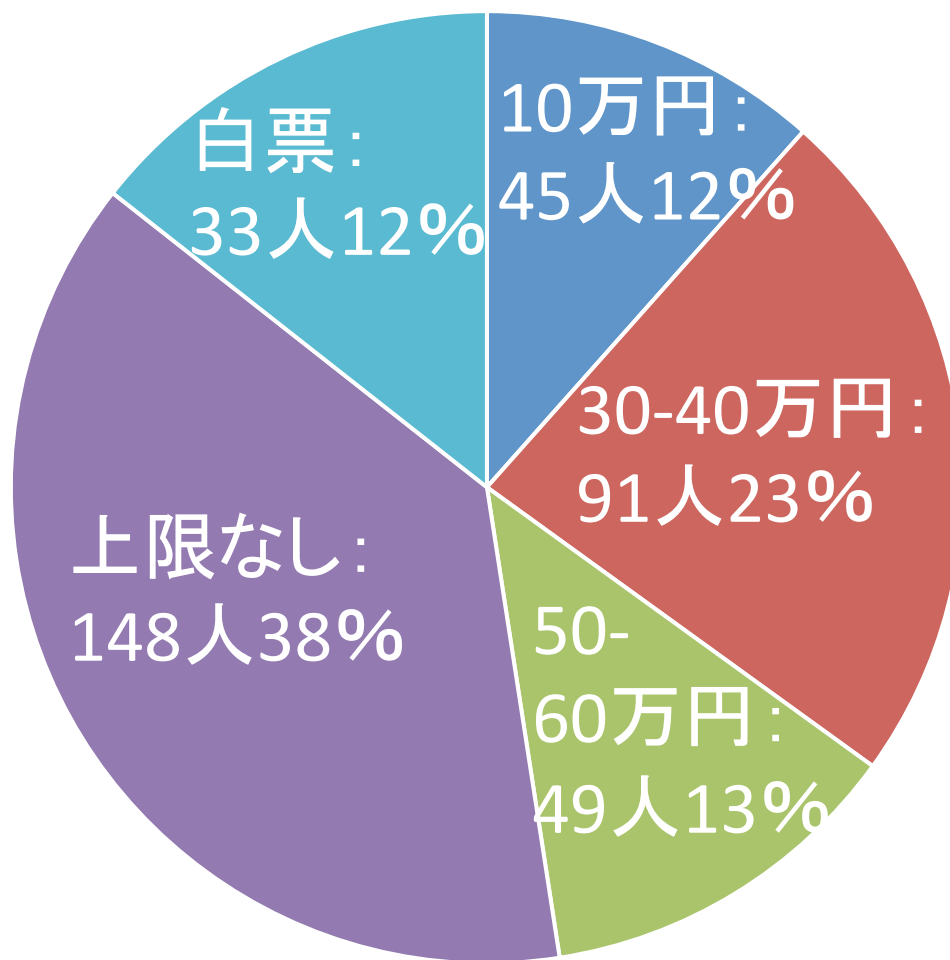
卵子および卵巣凍結への補助 公的補助の割合



389名

研修会施行後の医療費補助への意見

卵子および凍結への補助 公的補助の金額の上限



389名

患者サイドから見た必要性
社会医学的な立場から見た必要性
助成による弊害

についても今後の検討が必要